

# 北海道がんセンター通信

2015

第36号

NOVEMBER



第69回国立病院総合医学会開会式 桐野理事長挨拶

## CONTENTS

● 第69回国立病院総合医学会を終えて	院長	近藤 啓史	……	2
● 開催報告「第69回国立病院総合医学会」	管理課長	遠藤 洋一	…	3・4
● 講演要旨〈北海道 がんと闘う医療フェスタ 2015〉 「北海道がん対策基金」～がんに負けない社会の実現を目指して～ 公益財団法人 北海道対がん協会 事業推進監		南 聡一	……	5
● 開催報告〈講演会〉 「中学生に対する「がん教育」」	庶務班長	先崎 正夫	……	6
「第47回がん予防道民大会」	管理課長	遠藤 洋一	……	6
● 参加報告「白石すこやかフェスタ 2015」	地域医療連携係長	菊地久美子	……	7
「道新フォーラム「オール北海道でがんを防ごう」	管理課長	遠藤 洋一	……	7
● 開催報告「平成27年度がん看護研修」	教育研修係長	相生 洋子	……	8
「平成27年度看護部講演会」	7 F 病棟 副看護師長	宮原 由妃	……	9
● 各科トピックス 「頭頸部がん患者における嚥下訓練」	言語聴覚士	藤嶋 亮太	……	10
● 開催報告「第2回 感染管理研修会」	感染対策係長	一戸真由美	……	11
「平成27年度全国共通がん医科歯科連携講習会」	管理課長	遠藤 洋一	……	11
● ボランティアコンサートについて				12

北海道がんセンターの理念  
私たちは、国民の健康のために、良質で信頼される医療の提供に努めます。

(基本方針)

- 1 特に、「がん克服」に寄与することを目指します。
- 2 常に医療の質と技術の向上を目指します。
- 3 医療安全を確保し、安心できる医療を提供します。
- 4 患者さんの権利を尊重し、誠実な医療を実践します。
- 5 研究、教育研修を推進し、医学・医療の発展に寄与します。

# 第69回国立病院総合医学会を終えて



院長  
近藤 啓史 (副会長)

今年の国立病院総合医学会は、10月2－3日の2日間ホテルロイトン札幌、ニトリ文化ホール・さっぽろ芸術文化の館、札幌市教育会館を会場として開催されました。

毎年6グループが持ち回りで開催しており、今回は北海道東北グループが担当し、北海道医療センターが会長施設、当院が副会長施設として準備をしてきました。しかし台風21号崩れの低気圧が「爆弾低気圧」となり、大会初日の10月2日朝、北海道を直撃する予報に接し、菊地大会長が「開催の準備は十分やってきた。しかし天候だけは、準備できない」と嘆くくらい中止に追い込まれるのではないかと心配をしました。

結局、札幌では雨は夜間降り、日中は時折風が強い2日間であり、どうにか面目が保てた大会となりました。約2,600の一般・ポスター演題、36のシンポジウム（155題）、2つの特別講演、25のランチョンセミナー、そして多くの企業に展示をして頂きました。最終的には約6,500人の参加があり大会は盛り上がりました。

開会式は、高橋はるみ北海道知事、秋元克広札幌市長、長瀬 清北海道医師会長、平山妙子北海道看護協会長の揃い組で祝辞を頂きました。高橋知事には道議会最終日の中、また皆様ご多忙の中出席して頂き大変ありがたく思っています。

特別講演1は発酵学で有名な小泉武夫先生に「発酵の不思議」を講演して頂き、発酵のおもしろさを存分に語って頂きました。特別講演2は当院名誉院長 西尾正道先生にお願いし、福島原発の問題を絡め「放射線の光と影」のお話をして頂きました。

全員交流会の懇親会場は北海道らしい野性味あふれる料理にしようということで、苗穂のサッポロビール園ポプラ館を使用して、北海道の秋を感じて頂きました。さらには今年のさっぽろオータムフェスト2015が延長され、医学会中も、道内各地の旬の食材、ご当地グルメやラーメン、道産のとおきのお酒などの旨いものを堪能された方も多いと思います。

閉会式の直前に「もう国立ではない国立病院のミッション」のサテライトシンポジウムを開きました。国立病院本部から岡田、國分両部長が基調講演を行い、北海道医師会、道庁、北海道新聞社から意見を頂きました。

結論から言うと、まだまだ国立病院機構のことが理解されていない、見方を変えれば我々の情報発信が少ないことに気づきました。来年は九州沖縄グループの番で、開催地は沖縄となりました。来年11月11－12日は、かりゆしの正装をして沖縄で会いましょう。

# 第69回 国立病院総合医学会

## 地域でつくる明日の医療 ～まいにちから、まんいちまで～

2015.  
10.2(金)-3(土)

会場：ロイトン札幌、ニトリ文化ホール・さっぽろ芸術文化の館、札幌市教育文化会館

### 第69回 国立病院総合医学会

「地域でつくる明日の医療  
～まいにちから、まんいちまで～」

#### ● 開会式



菊地会長 (北海道医療センター院長)



桐野理事長

#### ● 来賓の方々の挨拶



高橋 北海道知事



秋元 札幌市長



長瀬 北海道医師会長



平山 北海道看護協会会長

#### ● 特別講演 2

演題『放射線の光と影』



西尾 北海道がんセンター名誉院長

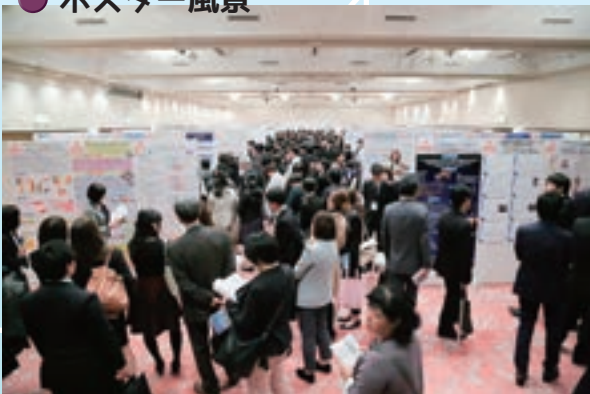
#### ● 特別講演 1

演題『発酵の不思議』



小泉 東京農業大学名誉教授

#### ● ポスター風景



さっぽろ芸術文化の館



ロイトン札幌

# ～当院からは3名がベスト口演賞・ベストポスター賞を受賞しました～ おめでとうございます。

## ● ベスト口演賞

臨床検査科	古川 郁子	Volume Navigationを用いた乳腺超音波の有用性
臨床検査科	舩本 和	院内導入に向けたBNP測定試薬の基礎的検討

## ● ベストポスター賞

治験管理室	樋口 清美	当院治験管理室における臨床研究コーディネーター教育プログラムの作成と活用について
-------	-------	--

## ● 全員交流会



サッポロビール園



会場内は大盛況



親睦・交流



海鮮料理

## ● 閉会式



閉会の挨拶と三本締めを行う、近藤副会長。  
そして、来年度開催の沖縄病院へバトンタッチ。

## ● 来年度会場

第70回  
国立病院  
総合医学会



日時：平成28年11月11日(金)～12日(土)  
場所：沖縄県宜野湾市 沖縄コンベンションセンター

## ● 集合写真



閉会式後の北海道医療センター、北海道がんセンター 両センター職員による集合写真

## 「北海道がん対策基金」 ～がんに負けない社会の実現を目指して～



公益財団法人 北海道対がん協会  
事業推進監 南 聡一

北海道がん対策基金が、本年2月9日にスタートいたしました。

北海道の主導の下に設置された「北海道がん対策基金」は、北海道対がん協会が事務局として管理運営しております。基金の事業概要について、説明させていただきます。

最初のがんの動向であります。平成25年に全国で亡くなった方は、1,268,436人で、その内、がんで亡くなった方は約36万人おります。がんによる死亡者は、死因第2位の心臓病を大きく引き離して、更に増え続けております。

北海道においても、がんの死亡数は、昭和52年から心臓病や脳卒中を追抜いて死因の第1位を続けており、年間約1万8千人を超える方々ががんにより尊い命を失っています。がんは、道民の生命や健康への脅威となっており、がんの克服は、多くの道民の願いであります。

このようなことから、「がんになっても安心して暮らせる社会づくり」を目標とし、道民が一体となってがん患者やその家族の方を社会全体で支える仕組みとして、本年2月に北海道が中心となり、企業や団体、道民の皆様からの募金や寄付を財源とした基金を立ち上げました。

この基金をもとに、「がんに負けない社会」の実現を目指して、様々な取り組みをしていくこととしておりますが、その取り組みとは、どういうものか、どういう事業に役立てるのか、支援するのかについては、次のとおりとなっております。

### ● がん患者・家族への支援

患者や家族の方々の身体的・経済的な負担を軽減するため、療養生活や就労などの相談のほか、ピアサポーターの派遣等を行う事業に支援する。

### ● 情報提供・普及啓発への支援

がんの正しい知識や理解を深めるためのイベントの開催や啓発素材の作成、地域の療養施設の情報提供等を行う事業に支援する。

### ● 小児がん患者・がん教育への支援

小児がんの子供への学習支援やその家族との交流、幼少期からがんの知識を深めるためのがん専門医を学校に派遣するがん教育等の事業に支援する。

### ● がんの受診促進・予防対策への支援

がんになるリスクを減らすため、日頃の生活習慣の改善や、がん検診受診の必要性を理解していただくためのイベントの開催や広報活動等に支援する。

このような取り組みをして参ります。次に、皆様からがん対策基金へご支援いただく方法であります。一つ目は、道民の皆様から直接募金や寄付をしていただく方法、二つ目は、企業団体等から直接寄付いただく方法、三つ目は、商品募金といまして、がん対策基金に協賛している企業の商品（飲料水やバナナ等）をご購入いただくことで、その売り上げの一部を協賛企業から寄付いただく方法などがあります。

以上、「北海道がん対策基金」の概要についてご説明申し上げましたが、今後とも、北海道と連携しながら、基金の運営体制の強化とともに、多くの道民の皆様のご支援とご協力をいただきながら、幅広く基金の活動に努めて参ります。

「北海道がん対策基金」に温かいご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

### ◆ 死因の第1位はがん



### ◆ 商品募金

北海道は、  
がん検診の受診率向上を  
目指しています。  
～がんに負けない社会の実現を目指して～

北海道がん対策基金  
活動案内

＜お問い合わせ＞  
公益財団法人 北海道対がん協会 011-748-0011  
北海道 札幌市中央区南一条西五丁目1番1号 5F 011-204-0117

＜協賛の場に関するお問い合わせ＞  
北海道がん対策基金 011-748-0000  
〒060-0812 北海道札幌市中央区南一条西五丁目1番1号

※ 2015年9月5日開催「北海道がんと闘う医療フェスタ 2015」にて同題でご講演いただきました。

## 講演会

### 中学生に対する「がん教育」

平成27年9月25日(金)、札幌市南区にあります札幌市立簾舞中学校において、全校生徒143人を対象に当院 近藤院長が「がん教育」の授業を行いました。

昨年度より始まった、北海道のがんの教育総合支援事業に基づき、今年度は札幌市立簾舞中学校が、がんの教育推進校に指定されており、生徒、教職員のほか近隣の住民の方も参加されました。

当日の講演依頼は、「がんに関して正しく理解し、健康と命の大切さについて主体的に考える態度の育成」という内容でした。近藤院長は、がんの専門医としての立場から「がんのことを知ろう 中学生向(予防編)」と題したスライドを用い、普段一般の方向けの講演会よりも、分かりやすい内容を心掛けて授業を行いました。

がんの予防のために、若い年代から心掛けてもらえるよう、食事、運動、喫煙など身近なことを題材にした質問で、たくさんの生徒さんにマイクを向け、ひとりひとりが「がん」について考える授業となりました。がんになるのは人ごとではなく、早期発見により治せる可能性が確実に高くなることを説き、いま自分に何が出来るのかを問い掛けました。

昨今のテレビ等メディアによる「がん」に対する報道も影響があり、生徒の皆さんの表情は真剣なもので、熱心に聴き入っていました。当日はがん経験者の方の体験談もあり、生徒の皆さんは「がん」について考えさせられる1日となったことでしょう。

(取材：庶務班長 先崎 正夫)



## 講演会

### 「第47回 がん予防道民大会」

平成27年10月9日(金)、江別市民会館(江別市)において、第47回がん予防道民大会が「がん検診 私と家族の笑顔のために」のスローガンで開催されました。



このがん予防道民大会は、毎年9月～10月の「北海道がん征圧・がん検診受診促進月間」に行われ、北海道、江別市、北海道対がん協会、北海道健康づくり財団が主催となり、当院は後援団体50施設の中に名を連ねました。

今年度の参加者は全道各地から920名集まりました。その中には、地元江別市の道立高校の生徒も参加し、「がん」に対する教育の熱心さが窺えました。

近藤院長は、北海道と対がん協会より特別講演を依頼され「がんを知り、がんには負けない2015」の演題で話されました。

講演では、「がんとは」と始まり、高齢者になるほど「がん」の罹患率が高くなること、北海道は「がん」の死亡率が、青森県に次いでワースト2位という不名誉な結果であり、それには「がん」を早期発見し、適切な治療が必要と話されました。

講演の内容は、とても分かり易かったので一般層や若年層にも、「がん」に関する正しい知識の普及ができたと思われま

(取材：管理課長 遠藤 洋一)

## 報告 白石すこやかフェスタ 2015 参加しました

「白石すこやかフェスタ」とは、健康づくりや子育てなどに関する情報の発信、並びに健康づくりを体験的に学べる機会を広く白石区民に提供するイベントで、今年は平成27年11月3日（祝）10：00～15：00に開催されました。会場は札幌コンベンションセンター大ホールで約1,100名の方が参加されました。

当院は昨年に引き続き医療講演会を行いました。加藤副院長が11：00～11：30、13：30～14：00と2回に渡り「正常な細胞がどうやってがんに変化するの？」というテーマで講演し、約50名の方が参加されました。

その他、内視鏡手術体験も昨年に引き続き実施し、好評をいただきました。普段病院にかかっても決して見られない、体験できない腹腔鏡の機器を使って子宮や胃の手術を体験してもらいました。手技がとても難しく、普段当院の医師が熟練した手さばきで手術を行っていることにみなさん感動されていました。

また、今年初めて看護師による相談をお受けしました。今かかっている病気についてや、医療機関の受診・転医の手順についてなど、いろいろな相談がありました。

がんセンターのブース以外にも、イベントコーナーでは縄跳び大会が催され、ニュースポーツ体験コーナーでは参加者が「スポーツチャンバラ」「キンボール」などのゲームを楽しまれていました。健康チェックコーナーでは、血管年齢・体内年齢・骨密度の測定や、鍼・温灸・指圧体験が行われました。また、食生活改善点では試食コーナーで黒豆を使ったごはんやニンジンゼリーなどが出され、健康に良い食事が提案されていました。

このような白石区のイベントに当院も昨年から参加させていただいていますが、当院がこのフェスタを盛り上げる一助となれていれば喜ばしく思います。また来年このような機会があれば参加し白石区のイベントに協力していきたいと思えます。

（報告：地域医療連携係長 菊地久美子）



## 報告 道新フォーラム「オール北海道でがんを防ごう」

平成27年10月27日（火）、かでの・27において道新フォーラム「オール北海道でがんを防ごう」が北海道新聞社主催で開催されました。このフォーラムは、高橋はるみ北海道知事、秋元克弘札幌市長の挨拶から始まり、続いて、埴岡健一東京大学院特任教授の基調講演が行われました。

埴岡特任教授は、基調講演の中で「北海道のがん死亡率は3年連続して全都道府県の中で第2番目に高く、減少のペースも緩やか。」、がん予防対策が必要であり、そのためには「患者を中心に医療者、行政、議会、民間事業者、メディアの6者の「6位一体（ろくみいったい）」連携により、がん対策を推し進めなければならないと話されました。

近藤院長は、この6位一体の医療者代表のパネリストとして、禁煙対策は議員による条例などを作成してもらうこと、がん検診は行政が検診予定者、要精検者に対して「コールリコール」などの方法を用いて受診勧奨してもらうことなどの連携が必要と話されました。

更に、近藤院長の「来年は全国の他、北海道でもがん政策サミットを開きたい。」との意見に、他の5者のパネリストも6位一体で継続的に集まろうとの声が上がリフォーラムは幕を閉じました。

（取材：管理課長 遠藤 洋一）

# － 開催報告 平成27年度 がん看護研修 －

都道府県がん診療連携拠点病院である当院は、がん看護の質の向上および教育に関して中心的な役割を果たす必要があり、2004年からがん看護研修を院内教育プログラムに取り入れてきました。

がん専門病院としての看護の質を保つために1年目から3年目までの看護師を対象に継続的にがん看護研修を実施しています(表1)。講師は看護部長をはじめ、がん看護専門看護師、各認定看護師、医療社会事業専門職などに担当していただき、看護部教育部会で企画・運営しています。

今回は、がん看護研修ステップⅠ・Ⅱの一部を紹介します。

研修名	研修日	研修時間	内容	方法
基礎	2月	2:30	①患者・家族の抱擁(がん患者の身体的・心理的特徴)	講義・グループワーク
がん看護ステップⅠ	7月	0:30	①がんセンターの役割、がん対策基本法	講義
	7月	1:30	②がんの治療 手術療法とその看護	講義・小テスト
	8・10月	1:30	③がんの治療 放射線治療とその看護	講義・事例検討・小テスト
	8・10月	1:30	④がんの治療 化学療法とその看護	講義・小テスト
	11月	2:30	⑤疼痛のある患者の看護(症状マネジメント)	講義・ディスカッション
	12月	1:30	⑥危機対応、看護倫理	講義・ディスカッション
	2月	3:00	⑦事例報告会	事例発表
がん看護ステップⅡ	6月	2:30	①症状マネジメント 事例検討	事例検討・ディスカッション
	7月	1:00	②患者・家族の抱擁(生活)	講義・事例検討
	7月	1:00	③患者・家族を取り巻く社会資源とその制度	講義・事例検討
	11月	4:00	④コミュニケーション技術	ロールプレイ
	12月	3:00	⑤事例報告会	事例発表

基礎：がん看護経験年数 1年未満看護師が受講する研修プログラム  
 がん看護ステップⅠ：がん看護経験年数 2年未満看護師が受講する研修  
 がん看護ステップⅡ：がん看護経験年数 3年未満看護師が受講する研修

## 1 がん看護研修ステップⅠ (がんの治療：放射線治療とその看護、化学療法とその看護)



がんの治療：化学療法とその看護 副作用対策などを学ぶ受講生

9月、10月に行われたがん看護研修は、当院の受講生に加え、市内の各病院施設の看護師32名が参加して行われました。日中の開催にもかかわらず多くの院外からの受講申し込みがあったことは、大変うれしく思うと同時に、どの施設も化学療法と放射線療法の副作用対策に苦慮されている結果だと思えます。

毎年、最新の治療や看護について認定看護師から実際の事例を用いた講義がありますので是非ご参加ください。

## 2 がん看護研修ステップⅡ (患者・家族を取り巻く社会資源とその制度、家族の悲嘆に対する看護)

ステップⅡは、「患者の苦悩の変化とそれに伴い希望する社会資源の変化」について、木川医療社会事業専門職から講義を受けました。1983年は10位だった家族への影響が2002年には1位に変化していることや、現在は仕事・社会活動への影響が苦悩の上位を占めていることなどから就労支援が重要になってきていることを学びました。



看護師の役割を自覚する受講生 就労相談の推移などを示す講師

菊地がん看護専門看護師からは「家族の予期悲嘆、悲嘆に対するケア」と題し、悲嘆のプロセスの最近の考え方や家族を捉える視点の変遷などの講義を受けました。家族を捉える視点が変化していることで看護師の対応も変化していかなければなりません。患者さんを看取った後は看護師も悲嘆を経験する。デスカンファレンスや先輩や同僚と会話を通して自分たちのケアをすることも忘れないでと結びました。

今年度のがん看護研修は引き続き行われます。

(報告：教育研修係長 相生 洋子)



## ◆ 平成27年度 看護部講演会 ◆

10月16日（金）、当院大講堂にて、平成27年度の看護部講演会を開催いたしました。

今年度は、講師に医療法人啓明会相原病院・独立行政法人労働者健康福祉機構関西ろうさい病院のリエゾン精神看護専門看護師である早川昌子先生をお迎えして、「がん患者さんの心理的支援」というテーマでご講演いただきました。院内外よりたくさんの方々にご参加いただき、院内は95名（医師2名、コ・メディカル6名、看護師87名）、院外からは32名、合計127名の参加となりました。

講演は、がん患者さんの心理的支援において、心のケアとともに身体の状態もみていくことが大切であること、特にがん患者さんにおいてはせん妄へのアプローチも大切であるということ、早川先生の実際の患者ケア経験を交えてお話しいただき、私たち聴講者にも看護場面が思い浮かぶような具体的で分かりやすい内容でした。

早川先生からは、「がん患者さんの心のケア」の実践には、日ごろより一番患者のそばにいる私たち看護師が、患者さんに関心を寄せ続けること、具体的な話の中から患者さん家族の置かれた環境がわかること、日常生活の問題を患者さんと考えていくことが重要であるとお話くださいました。また「患者・家族との関わり」において、コミュニケーションはキャッチボールでありキャッチボールが続くことが大事であるというお話から、あらためてコミュニケーションの大切さを認識することができました。そして今回の講演を通して多くの参加者は、失敗を恐れては何も変わらないという気持ちを持ち続けて看護実践していくことが大切であるという早川先生のお話が心に残ったのではないかと思います。

参加者の方々からも今回の講演について、「今後の看護ケアに活かせることがたくさん見つかった」「実践につながりとても役立つ講演であった」「わかりやすく興味深い話が多かった」などといったご意見・ご感想をたくさんいただきました。

この講演会を通して学んだことを、北海道がんセンターの看護職員として今後のがん看護ケアに少しずつでも活かしていけるよう、患者・家族とのコミュニケーションを大切に、知識や技術の向上に努めていきたいと思えます。



（報告：7F病棟 副看護師長 宮原 由妃）

# リハビリテーション科

## 「頭頸部がん患者における嚥下訓練」

頭頸部がん治療中～後の嚥下障害の頻度について一般的な見解はありませんが、舌がん・口腔がん術後の摂食嚥下障害発生率は約75%であるという報告や、咽頭がんでは50%、喉頭がんでは42%が術後3年以上の嚥下障害を経験していたという報告があります。

### 【頭頸部がん治療に伴う嚥下障害の特徴】

頭頸部がんの治療による嚥下障害には、以下のような特徴があります。

舌がん術後：嚙みにくい。味がしにくい。口に残る。のどに送れず飲めない。

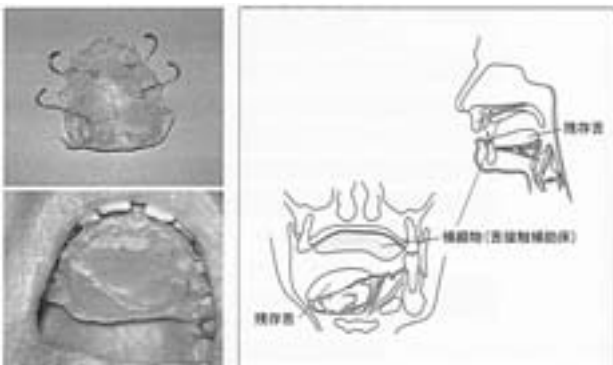
咽頭がん術後：飲みにくい。飲み込んだ後にのどに残る。むせる。

喉頭がん術後：液体のようなばらばらになりやすいものを誤嚥しやすい。

表 頭頸部がん患者に対する主な嚥下訓練

間接訓練	直接訓練
<ul style="list-style-type: none"> <li>・頭部可動域訓練</li> <li>・口腔運動</li> <li>・構音訓練</li> <li>・発声訓練</li> <li>・舌前方保持嚥下</li> <li>・努力嚥下</li> <li>・バルーン法</li> <li>・息こらえ嚥下</li> <li>・メンデルゾーン手技</li> <li>・頭部拳上訓練</li> <li>・アイスマッサージ</li> </ul>	<p>&lt;食事形態&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・舌がん：ペースト食から開始</li> <li>・咽頭がん：固形物から開始することが多い</li> <li>・喉頭がん：固形物から開始</li> <li>・とろみ剤を使用</li> </ul> <p>&lt;姿勢&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ギャッジアップ座位</li> <li>・横向き嚥下</li> <li>・一側嚥下</li> </ul> <p>&lt;食べ方&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・随意的な嚥</li> <li>・複数回嚥下</li> <li>・息こらえ嚥下</li> <li>・流し込み嚥下法</li> <li>・嚥下補助具の利用（ドレッシングボトルや柄の長いスプーン）</li> <li>・舌接触補助床、軟口蓋拳上装置など補綴物の利用</li> <li>・一口量の制限</li> <li>・交互嚥下</li> <li>・圧送り込み法</li> </ul>

文献 1) 2) より作成



舌接触補助床 (palatal augmentation prosthesis : PAP)<sup>4)</sup>

化学放射線治療中～後：口やのどが痛い、動きにくい。唾液が出ない。誤嚥してもむせない。

### 【嚥下訓練（表参照）】

嚥下障害に対しては「食べる＝直接訓練」が最大の訓練です。

筋活動がなくなると筋力は1日3%、1週間で15～20%低下するとされ、絶食が長引くと嚥下障害はより重症化してしまいます。絶食期間は可能な限り短縮すべきですが、むやみに食べると誤嚥性肺炎につながりますので、評価に基づいて安全に食べられるよう<食事形態><姿勢><食べ方>を調整する必要があります。

並行して食べ物を使わない間接訓練も実施し、口やのどの可動性・筋力の向上を目指します。

歯科口腔外科で作成する舌接触補助床（図参照）や軟口蓋拳上装置も有効です。

### 【嚥下訓練の効果】

嚥下訓練を行うと経口摂取可能となる時期が早まるとされ、ガイドライン<sup>2)</sup>では舌・喉頭がん術後に対して「行うよう勧められる」、咽頭がん術後に対して「行うことを考慮してもよいが、十分な科学的根拠がない」としています。化学放射線療法についても嚥下訓練の有効性が報告されています。

嚥下訓練によって術前と同じ食生活を送れるようになるとは限りませんが、「食べる」という当たり前の行為ができることは生活の質 (quality of life : QOL) の向上に重要であると考えております。

### 【参考文献】

- 1) 日本がんリハビリテーション研究会編：がんのリハビリテーションベストプラクティス。金原出版、2015。
- 2) 丹生健一ほか編：頭頸部がんの化学放射線療法。日本看護協会出版会、2015。
- 3) 日本リハビリテーション医学会編：がんのリハビリテーションガイドライン。金原出版、2013。
- 4) 辻哲也編：がんのリハビリテーションマニュアル。医学書院、2011。



言語聴覚士  
藤嶋 亮太

## 第2回 感染管理研修会

本年10月6日(火) 17:30～当院大講堂にて、「第2回 感染管理研修会」を開催しました。参加者は、当院職員および感染対策地域連携病院等の医療従事者で、62名が参加しました。

テーマは「感染対策と環境衛生」で、札幌医科大学附属病院 感染制御部 感染管理認定看護師の西 朝江（にし ともえ）先生に、ご講演いただきました。西先生は、環境とは何か、なぜ環境衛生が必要なのか、環境はどのくらい汚染しており微生物はどのくらい生き残っているのか、環境からどのようにして感染が広がるのかなど、誰もが知っているようで実はよく知らない基本的なことを、とてもわかりやすくお話ししてくださいました。



特に、普段は見えない汚れや微生物が見えたらどうなるか、触れたところに緑色の汚れが伝わっていく動画（「手洗い」推進のため、インターネット動画サイトで配信されている）は、衝撃的でした。また、他院で院内感染として問題となったアウトブレイク（感染多発）事例をもとに、問題点と対策をお話しいただきました。



当院の建物は築30年を超え、施設設備としての安全管理や環境衛生管理に苦慮しているのが現状です。そのような状況の中でも環境を衛生的に保ち感染拡大を防げるよう、職員は日々努力しています。また、病院新築に向けて、より安全で快適な施設にしようと、院長をはじめ職員で検討を重ねています。

今回の講演で学んだことを生かし、今後も更に感染対策を徹底し、感染拡大を防いでいきたいと思います。

（報告：感染対策係長 一戸 真由美）

## 平成27年度 全国共通がん医科歯科連携講習会

平成27年10月24日(土)、当院の大講堂において、社団法人北海道歯科医師会主催で全国共通がん医科歯科連携講習会が開催されました。

平成24年9月24日、北海道がん診療連携協議会と社団法人北海道歯科医師会が「がん患者の口腔管理に係る医科歯科医療連携」に関する合意をしました。この合意は、がん患者が安心して歯科治療や口腔ケアなどの口腔管理を受けられる体制を整備することを目的としたもので、今回、その一環として講習会が開催することとなりました。

当日、北海道がん診療連携協議会会長として近藤院長が挨拶し、講習会が開始されました。

参加者は、歯科医師、歯科衛生士、がん診療連携拠点病院の看護師及びコメディカルなど他職種が約30人集まって行われました。

この後も、苫小牧（11月14日）、砂川（11月24日）でも行われ、12月5日～6日に旭川で、平成28年1月9日～10日には札幌で再度開催される予定です。

（取材：管理課長 遠藤 洋一）

# ポラッシュティアコンサートについて

## 「コンサート」

平成27年10月29日(金) 15時より、1階外来ホールにおいて開催した院内コンサートは、当院での治療がご縁となり、R & BバンドのVocalやユニット、ソロとしても精力的に活動している藤原Pattiさん、ご主人の藤原 宏一さん (Bass担当)、白藤 千代さん (Piano担当)、そして「Guest Guitarist」として以前当院に勤務されていた新谷直昭先生の4人によるコンサートとなりました。

藤原さんは、長年の経験を活かして専門学校やタレントスクールでのVocal指導も行っており、白藤さんも幼少よりピアノを始められ、バンド活動はもちろん、ピアノ講師も務められるなど幅広く活躍されている方々です。

当日は、「Peace of mind」という曲から始まり、最後の「Over the Rainbow」全9曲の演奏でした。

集まった方々へしみじみと聴かせる曲や手拍子が出てくる曲など、幅広い選曲で会場を盛り上げていただきました。また、同じ治療中の患者さんとの交流もあったようで、またひとつ意義あるコンサートが行われたように感じました。



この場をお借りしまして出演された方々に、深く感謝申し上げます。

独立行政法人 国立病院機構

北海道がんセンター

都道府県がん診療連携拠点病院



〒003-0804

北海道札幌市白石区菊水4条2丁目3-54

代表 TEL (011) 811-9111

FAX (011) 832-0652

ホームページ <http://www.sap-cc.org/>

スマートフォン版ページ

<http://www.sap-cc.org/sp/>

QRコード→



### ● 相談窓口

がん相談支援センター

直通電話 (011) 811-9118

地域医療連携室

直通電話 (011) 811-9117

直通FAX (011) 811-9110

メールアドレス [hcccis00@sap-cc.go.jp](mailto:hcccis00@sap-cc.go.jp)

## 交通のご案内



【地下鉄】 地下鉄東西線「菊水駅」下車、3番出口より徒歩3分

【自動車】 駐車場につきましては数に限りがありますので、できるだけ、公共の交通機関をご利用下さい。